

困った病理7 「遺伝子検査の実際 -検体提出から検査まで-」

近年、遺伝子診断や遺伝治療などの新しい技術が多数行われている。血液や病理の検体で遺伝子解析は可能であるが、検体の保存や処理、提出方法など各施設で様々な工夫がなされていることと
思います。そこで各施設の検体の取り扱いについてお話をさせていただきたいと
思います。また、実際にどのように検査が行われているか、お話しを伺いたいと
思います。

日時：令和元年12月15日(日) 9:00～12:30

会場：岡山赤十字病院 南館研修室

所在地：700-8607 岡山県岡山市北区青江2-1-1

研修会内容

受付 8:30～

講演1 9:00～10:00

遺伝子検査方法について(仮題)

株式会社エスアールエル

高橋 祐太

講演2 10:00～11:20

当院における遺伝子検査の現状

岡山赤十字病院

斎藤 利江子

倉敷成人病センターでの遺伝子検査対応について

倉敷成人病センター

高田 由貴

川崎医大におけるがんゲノム医療への取り組み

川崎医科大学附属病院

米 亮祐

がんゲノム検査のために、岡山大学病院で行なっている事

岡山大学病院

實平 悦子

講演3 11:30～12:30

遺伝子関連検査の基礎から臨床応用まで

川崎医療福祉大学

中桐 逸博

認定病理検査技師 認定更新指定研修会
承認番号 19-021 (B-20単位、C-35単位)
参加費 : 会員 500円

問い合わせ先

岡山赤十字病院 病理診断科 病理部
林 敦志
700-8607 岡山県岡山市北区青江2-1-1
086-222-8811 (21245)
E-mail: a-hayashi@okayama-med.jrc.or.jp

施設案内図

